



図書館からのおすすめ!

この本、読んでみませんか?



おすすめ①



「海にしずんだクジラ」

メリッサ スチュワート／文

ロフ ダンラヴィ／絵

千葉 茂樹／訳

藤原 義弘／日本語版監修

B.L出版／刊

(二〇一三年)



昔の日本では、海岸や浅瀬に迷いこんで死んでしまったクジラを「寄り鯨」や「流れ鯨」と呼び、肉や油、骨を貴重な資源として活用してきました。それでは、沖の方で死んでそのままの底に沈んだクジラは、いったい誰がどのように活用しているのでしょうか?

長い年月を生き抜いたクジラは、死んで海の底にしずんだあとも、深海の生き物たちのいのちを支えています。深海魚や深海サメが肉を食へ、その食へ残しをエビやカニが食へ、さらに残った骨を微生物が分解し、そうして集まった生き物を狙う捕食者も集まってくるという具合で、その死骸のまわりには新たないのちの連鎖

おすすめ②



「ディズニーそうじの神様が 教えてくれたこと」

鎌田 洋／著

SBクリエイティブ／刊

(二〇一三年)



が生まれていきます。こういった生き物たちの集団を「鯨骨生物群集」と呼び、クジラが死んだ場所や沈んだ深さによってそのメンバーたちも変わっていきます。「この本はそうした鯨骨生物群集のようすを色鮮やかに描いており、まるで自分もその生物群の一員となって、クジラの体が海に還っていく様子を直接見ているかのような感覚をおぼえます。陽の光も人の目も届かない深海で何が起きているのか、想像してみたいかがでしょうか。

みなさんはそうじが好きですか?学校のそうじの時間、まじめにやらなければいけないのはわかっているけど、ついついふざけてしまう。テスト前、勉強をしたくないがために、部屋のそうじがはかどってしまふ…。どうしても「そうじ」といえば、面倒くさい、時間がかかる、疲れるといったマイナスの印象があるかと思いま

す。しかし、誰もが敬遠しがちなそうじを、まさに芸術の域にまで昇華させた人物がいます。その人こそ、ディズニーランドを作ったウォルト・ディズニー氏が最も信頼を寄せた清掃員、「そうじの神様」ことチャック・ボヤージン氏です。ディズニーランドがまだ建設途中だった四十年前、「ナイトカストーディアル」(夜間の清掃員)として研修を積んでいた著者は、来日していたボヤージン氏から、清掃員として大事なことを学びます。ほうきとちりとりをまるで自分の手足のように扱う方法、「裏方」としての心がまえ、そしてゲスト(お客様)に魔法をかける方法。

残念ながらボヤージン氏は二〇〇四年にこの世を去りましたが、彼の教えは今でもパークのキャスト(従業員)たちの間に息づいていきます。そうじが苦手な人、ディズニーが好きな人に読んでもらいたい一冊です。

中央図書館が令和六年一月二十四日に

リニューアルオープンしました!

令和四年四月から改修工事のため、休館していた中央図書館が、一月二十四日にリニューアルオープンしました!

休止していたおはなし会や調べもの相談なども再開します。ぜひ中央図書館へお越しください!

きてね!



スタッフ募集ページ



(<https://www.lib.fussa.tokyo.jp/info/2023/05/post-46.html>)

いろいろは新聞編集スタッフを募集しています!
好きな本の紹介、イラストの作成など、自分の得意な分野で活動できます。
対象は、市内在住・在学の中・高校生世代です。
興味のある方は、図書館ホームページの募集ページをご覧ください、中央図書館までご連絡ください!



活動の様子(2009年)